

12がときひがの子

校長だより
令和元年
12月20日
第31号

絵手紙(年賀状)をかく会

12月11日(水)講師の飯田禮子先生、斉藤京子先生をお迎えし、「年賀状」作りをしました。

絵手紙作りは、今年で8年目。子供たちは、ネズミ、もち、おせちの絵を入れたり、「来年はチュー学生」「お年玉をチューだい」など、言葉を工夫したりしていました。45分の短く限られた時間でしたが、一人で2枚から3枚仕上げる子も多くいました。全員の作品は12月17日まで展示し、「中日新聞のほのぼの絵手紙」に応募しました。また、CBCテレビの取材もあり、お昼・夕方・翌朝に放映されました。放映時間を直前に連絡されたので皆さんにお伝えできませんでしたが、録画を給食時の放送で視聴しました。



防災会議

12月11日、午後4時から開催しました。参加者は、愛工大、岐阜大4名、地域4名、保護者3名、学校4名の15名です。審議の内容は、①学校全体のマイタイムライン作り②防災パン・保存水③地域への出前の授業④地震への対応や避難場所など、6年生の防災授業の内容や学区の防災対応、学校の準備など真剣に協議しました。防災指導員の中根勇雄さん、内藤松男さん、PTA役員の皆さんからも、貴重なご意見を多くいただき本当にありがとうございました。



小丸町で出前授業

12月15日(日)小丸町の公民館で6年児童が、「防災出前発表」の授業を開催しました。大江 智秀総代さんをはじめ、小丸町の皆様のご尽力で実現しました。米河内町・大柳町、新居町に続いて今回で4回目です。子供たちは、最初はぎごちない説明でしたが、次第に慣れてきました。20名ほどの参加者は子供たちの説明を受けて「土砂災害マイタイムライン」づくりに取り組むことができました。この後、子供たちは、自分たちでできることとして地域の方々に非常食をおいてもらおうと、「防災パン」「保存水」の紹介をすることができました。

6年児童の出前防災発表



小丸町の皆様、ご参加くださり、誠にありがとうございました。



清そうの楽しさと気持ちよさ

5年 細川 煌貴

ぼくは清そうが苦手です。なぜかという、清そうはきれいになるのはいいけれど、面どうくさいし、手順が多いからです。学校では先生に言われたように清そうをしているけれど、家となると母にまかせっきりでした。

そんなある日、
「通学路清そうに行かない。」

と母から声をかけられました。でも、ぼくは今までやっていなかったし、面どうだったのだから断りたかったけれど、「もう五年生なんだし、やってみようよ。」

と強さそわれたので、仕方なく行ってみることにしました。

通学路清そう当日の朝、やっぱり面どうだなという気持ちになりながら、通学路の清そう担当場所に着きました。すると、同じ通学班の友達が待っていてくれて、いっしょに始めました。初めにしたのは、草をかまですることです。まず、母がぼくたちに手本を見せてくれました。左手で草を束にして持ち、右手のかまですてザクッと切っていました。ぼくは、母のまねをしてやってみました。すると、

「上手だね。」

と母がほめてくれました。ぼくは、草かりなんてかん単じゃんと思いました。

しばらく草をかっていると、校長先生と教頭先生が乗った車がやってきました。車からおりてきた先生方が、

「がんばってやっているね。えらいぞ。」

と言いながら、作業しているぼくたちの写真をとってくださいました。ぼくは、校長先生にほめていただいたので、いい気分になってきました。そして、清そう場所を馬頭観音様がある所へ移動しました。その観音様の所の草は草たけが長く、あたり一面にびっしりと生えていました。

かろうとすると、すぐにうでに草が当たって、くすぐたくて、なかなかうまく草をかれませんでした。ぼくは、観音様の周りの草をかめることに苦労を感じてきました。取っても取っても草は減らないし、石と石の間に生えている草はかまではかりづらい、だんだんいやになってきました。ぼくは立ち上がって周りを見ってみました。すると、父が草かり機を使って作業をしていました。機械を使うと、くきが太い草でもスパスパッと切れていました。大人はいいな、機械を使って一度にたくさんの草をかれるからなと思いました。でも考えてみると、ぼくがやっている場所は、機械やかまの刃が石にあたってしまう所にたくさんの草が生えているから道具があまり役にたちません。もしかして、素手で取った方が効率上がるんじゃないかと思えてきました。そこで、かまを置いて、左手で草の真ん中あたりを持ち、引っこめくように取ってみました。思った通りでした。草はみるみるうちに取れて、ぼくのやり方で観音様の周辺の草を全部取ることができました。じゃまな草が全てなくなり、観音様が前よりも立派に見えて、特別なふん囲気がしてきました。ぼくが取った草は一つにかためて手で山の方へ捨てました。七回も運びました。観音様の周辺だけでもこんなにあつたんだとおどろきました。

最後に、道路に出してしまった土や細かいほこりをはきました。竹ぼうきを上手に使ってきれいになりました。ぼくも大人のまねをしてやってみました。母がほめた所はぼくがやったところとはけたちがいきれいになっていました。毎日通っている通学路がいつもこんなふうきれいになったらいいなと思いました。みんなではくと、あつという間に道がきれいになりました。こんな道なら歩く人も車もきつといい気持ちになるぞと思いました。馬頭観音様の所もほうきではきました。きれいになったので、観音様も喜んでくれていると思いました。

「きれいになったから、そろそろ終わりにしようか。」

と父が言いました。いっしょに清そうをした友達や大人にお礼を言いました。母はぼくを見て喜んでいました。自分たちがそうじをした道を見てみると、きれいさっぱりして、がんばったか

いがあつたなと思っていると、おじさんが、

「ご苦労さんだったね。」

と言ってジュースをくれました。

ぼくは、友達と別れて家にもどりました。さっきもらったジュースを飲もうと思い、いきおいよくふたをあけるとプシュツという音がしました。ごくごく飲んでみると、その味は格別でした。あんなに苦手だと思っていた清そうが、今回はこんなきっかけで好きになりました。これからも自分の住んでいる町をきれいにしたいと思いました。道路にポイ捨てをする人も、いつかきつとゴミを拾う側の人になってくれると願っています。なぜなら、ぼくが経験した清そうは、地域のみんなで楽しくするもので、周りの人を気持ちよく笑顔にするものだからです。たくさんの人にこの気持ちを知ってもらいたいです。

